

横浜市 歴史博物館 NEWS 19 2004・9

- ◇新館長あいさつ 一層のご叱正とご支援を
- ◇特別展「ヤマトとアヅマ」によせて
- ◇＜研究余話＞港北区師岡町と中世の法華寺
- ◇収集・収蔵資料の紹介[20] 拄杖図
- ◇＜常設展示室探検＞再現神奈川世界
- ◇＜博物館ウラバナシ＞災害対策
- ◇＜ちょいとミュージアムショップたいむ＞
新商品紹介 「草木染めのきんちゃく袋」と「ミニ土器」
- ◇＜知ってますか?＞案内看板 新設!





新館長あいさつ

一層のご叱正とご支援を

横浜市歴史博物館館長 高村直助

この四月から横浜市歴史博物館の館長に就任いたしました。

私は長年、日本近代史の研究と教育に携わってきましたが、さまざまな点で横浜とはご縁があったように思います。

ずいぶん昔になりますが、ちょうど東京オリンピックが開催されたころ、当時まだ大学院の学生でした。『横浜市史』の執筆グループに加えていただいて以来、横浜の歴史との関わりが始まりました。その完結の後、一九三〇年頃から高度成長期までを対象とする『横浜市史Ⅱ』の編集が、昭和六〇（一九八五）年に開始されるに際して、代表編集委員を委嘱されました。以来、一〇名余の編集委員とともに一九年間にわたってその編集と執筆に当り、今年の三月「総目次・索引」の刊行を以て事業を終えました。

またこの間、最初に教壇に立ったのが横浜の大学だったことがきっかけになって横浜に住むことになり、三年前に事情があつて東京に移住するまでの三〇余年間、横浜市民でありました。

一〇年近くにわたって館長を務められた平野邦雄先生は、古代史研究の権威であられるばかりでなく文化行政に携わられたご経験もお持ちでした。その後を引き継ぐことにはいささかためらいを感じましたが、これまでの関わりから、横浜の歴史と地域には自分なりの思い入れもあり、またこの博物館は原始・古代から近代に至るまでの広い時代を扱っているという事情もありましたので、お引き受けした次第です。

当博物館は、来年初めには開館一〇周年という節目を迎えようとしています。前館長はじめ学芸員・職員の努力の積み重ねによって、多くの市民の方々に広く親しまれるようになってきていると思っています。しかし、歴史研究の進展や市民ニーズの高度化・多様化を考えると、現状に安住することなく、横浜の通史を対象とした常設展示のリニューアルなど、新たな歩みを始めるべき時期だといわねばなりません。また実際にも、本年度からは横浜市ふるさと歴史財団として市との間に協約を結び、この三年間により一層多くの方に有効活用していただけるよう努力することを約束しました。

博物館は、文字で記された史料だけではなく、残されたモノや描かれた絵図など広い範囲の資料を組み合わせることで、歴史の再現をはかっている場であり、また、実際に過去を追体験できる場でもあります。「百聞は一見に如かず」ともいいますが、歴史に関心をお持ちの市民の方多数のご来館を期待しております。その上で、一層のご叱正とご支援をお願い申し上げます。

特別展「ヤマトとアヅマ―武具からみるヤマト王権と東国―」によせて



野中古墳出土の甲冑



朝光寺原1号墳出土の甲冑

横浜市青葉区の朝光寺原古墳群からは多量の鉄製の武器・武具が発見されています。中でも朝光寺原1号墳では、三角形を主体とした鉄板を鉄製の鉋で綴じ合わせて作り上げた甲（三角板鉋留短甲）と、小さな鉄板（小札）を鉋で綴じて作った腕状の鉢の前面に庇が付いた冑（小札鉋留眉庇付冑）をはじめとして、鉄刀・鉄剣、鉄製のやじりである鉄鏃など、数多くの鉄製の武器・武具が納められていました。これらは、古墳時代中期頃（五世紀中葉～後半）の朝光寺原古墳群に葬られた人物とヤ

マト王権との関係を示唆しています。特別展では、朝光寺原1号墳の短甲・眉庇付冑をはじめ、東国地域や近畿の古墳から発見された甲冑に焦点を当て、それが東国地域の有力者、ヤマト王権においてどのような意味をもっていたのかを探ります。

古墳時代になると四世紀の中頃から鉄製の甲冑が出現します。初期の甲冑は形や構造が個々に異なり、統一的な形式をもっていないのが特徴です。五世紀の初め頃には、長方形板革綴短甲、三角板革綴短甲等が出現します。これらは、帯状の鉄板で二つの枠組みを構成し、その枠内に長方形や三角形の地板を革で綴じて埋めていくものです。これらの短甲には、前額の部分に船の舳先のような形の衝角板を付け、三角板を革で綴じ合わせた三角板革綴衝角付冑がセットになります。大阪府豊中市の大塚古墳、京

都府宇治市の二子山北古墳、東京都世田谷区の野毛大塚古墳にその事例がみられます。

五世紀の中頃までには、鉄の地板を重ねて鉄の鉋で留める鉋留の技法が導入され、技術革新が行われました。これにより、短甲では三角板鉋留短甲や、横長の地板を用いる横板鉋留短甲が量産されるようになります。装着のために、右側の前胸が蝶番によって開閉するようになるのもこの時期です。冑にも鉋留技法が採用され、三角板鉋留衝角付冑、さらには横長の地板を使用する横板鉋留衝角付冑、小さな鉄板を用いる小札鉋留衝角付冑が登場します。また、鉢の前面に透かしを施した庇が付く眉庇付冑も出現します。

この時期のヤマト王権を象徴する古市・百舌鳥古墳群の中には、多量の武器・武具を埋納した古墳があります。大阪府藤井寺市の野中古墳では、短甲一領、眉庇付冑八個、革製の衝角付冑三個をはじめ、大量の鉄剣・鉄刀、鉄鏃が出土しています。また大阪府美原町の黒姫山古墳では、二四領の短甲、一一個の衝角付冑、一三個の眉庇付冑が発見されています。これらは、個人が使用する量をはるかに超えた大量の甲冑の埋納形態であり、ヤマト王権による組織的な生産と管理体制ができたことを示しています。また、前段階の複数の甲冑

を埋納された近畿地域の古墳の被葬者は、ヤマト王権の軍事組織を担う人物であったと想定できますが、野中古墳・黒姫山古墳の甲冑の大量埋納は、それらの被葬者とは異なる、ヤマト王権の大王に付属する常備軍の存在を示唆するものと考えられます。

東国地域に目を向けると、東山道・東海道にそった地域に早い段階の革綴の甲冑が埋納された古墳をみることが出来ます。また関東地方では、五世紀中頃以降に、横板鉋留短甲をもつ中小規模の古墳が多くあります。これらの甲冑はヤマト王権から供給されたものであり、東国の有力者と王権との多様な関係を示していますが、千葉県市原市の稲荷台1号墳から出土した「王賜」銘鉄剣、埼玉県行田市の稲荷山古墳出土鉄剣銘に象徴されるように、ヤマト王権は、東国地域の中小のリーダーを直接掌握し、軍事組織を拡充していったことが推測できます。横浜市の朝光寺原古墳群もこの中に位置づけられるでしょう。

五世紀末頃には、多数の小さな鉄板を革で綴じ合わせた可動性の高い掛甲が、短甲にかわって主流となっていく、大量の埋納もみられなくなっていくのです。

特別展において、古墳時代の様々な形式の甲冑、近畿地方と東国地域の甲冑、さらにはそれを装着した武人の姿をかたどった埴輪などを通して、五世紀の横浜地域をふくむ東国とヤマト王権との関係に思いを馳せていただければ幸いです。

会期 10月9日（土）～11月28日（日）

（平野卓治）

研究余話

港北区師岡町と中世の法華寺

もろおかちよう

ほつけじ

一、地名「師岡保」のひろがり

現在の港北区師岡町の町名「もろおか」は諸岡とも記し、ふるく『和名抄』や七世紀の奈良県藤原京跡より出土した木簡にもみられる地名です。

この師岡は、『吾妻鏡』にみられる武士諸岡氏に由来するとも言われますが、中世になると地域名称である保の「師岡保」として表れます。たとえば寿永二年（一一八二）に「武蔵国師岡保内大山郷」（現鶴見区内）が鶴岡八幡宮領とされたり、貞治六年（一三六七）に「武蔵国師岡保小帷子郷」（現保土ヶ谷区）の地頭職が譲り状に見られたり、嘉吉元年（一四四二）に「師岡保内柴関所」（写真一）とあるなど、さまざまな史料にみられます。また神奈川県神奈川本町の成仏寺には、天正一八年（一五九〇）の豊臣秀吉禁制が伝わり、その宛所にも「師岡保内十二ヶ郷」とあります。寺伝によれば、これは師岡熊野神社が後小松院

の勅願所（天皇が祈祷などを命じる寺社）とされた折に、周辺十二ヶ郷を社務（運営を補助する寺）と定めたことに由来するといひます。これらの史料から中世における師岡保とは、現在の横浜市中心部をひろく示す、地域名称だったことがうかがえます。

鶴岡八幡宮土地護摩公新
武蔵国師岡保内大山郷
為持所宗近間跡山自金
松久八幡宮土地護摩公新
由持所宗近間跡山自金

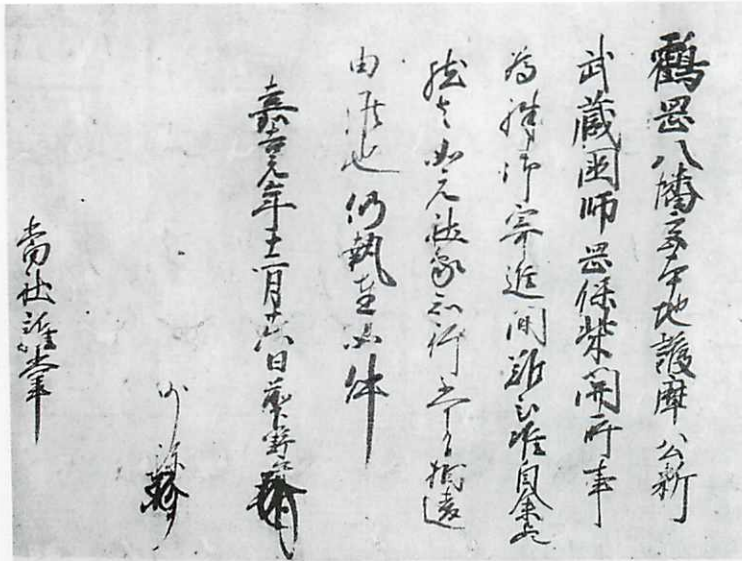


写真1 関東管領上杉清方奉行人連署奉書（鶴岡八幡宮蔵）

二、師岡町の地形

師岡町の明治時代以前の様子を示すものに「明治八年師岡村旧公図」があります（写真2）。これは土地一筆ごとの形状・地番・地目・面積等を記載したもので、明治初年の地租改正によって作成され始めました。別名を字限図・地籍図ともいいます。写真はその初期に作られた師岡村全体を示すものです。

この図をみると、師岡町（旧師岡村）は東と南・北をそれぞれ獅子ヶ谷村・菊名村・樽村に接し、また現在も師岡町に残る表谷戸・仲谷戸・南谷戸・打越の四つの字が描かれます。これらの字は東西に長く、山裾に沿ってのびる用水路を中心としており、用水路に沿っての集落を、現在も「根家」用水路に沿っての道を「根道」と言います。文政十一年（一八二八）完成の『新編武蔵風土記稿』の「古師岡村」項には、これらの字や用水路の源泉となる溜め池・湧水池が記載されています。二つの溜め池の内、一つは埋め立てられてしまいましたが、残る一つは熊野神社前の「いの池」にあたりま

す。

このような四つの谷戸によって形成される師岡町の形態は、少なくとも十九世紀以前には成立していたことが分かります。

三、貞治二年「法華寺毎日例時番帳之次第」

師岡町には、法華寺と熊野神社という二つの古刹がならんで鎮座します。この両者



法華寺

は明治時代の神仏分離以前には、別当寺とその鎮守社として一体のものでした。

法華寺は高倉院の勸願所との寺伝を持ち、全寿上人によって開かれたことから、長く全寿院と号していました。この法華寺について、南北朝時代の貞治二年（一三六三）の年紀をもつ「法華寺毎日例時番帳之

次第」（関東随一靈驗所郷社熊野神社要覧）熊野神社社務所、大正九年刊」という史料があります。そこには、

定

法華寺毎日例時番帳之次第

心連坊 正五九 自 一日至 七日
 禪乗坊 正五九 自 八日至十四日



写真2 明治8年師岡村旧公図（横溝茂氏蔵）

覚城坊 正五九 自十五日至廿一日
 別当坊 正五九 自廿二日至廿八日
 松本坊 二六〇 自廿九日至 五日
 理歡坊 二六〇 自 六日至十二日
 理覚坊 二六〇 自十三日至十九日
 定眞坊 二六〇 自廿日至廿六日
 蓮臺坊 二六〇 自廿七日至 三日
 頼覚坊 三七十一 自 四日至 十日
 義性坊 三七十一 自十一日至十七日
 禪鏡坊 三七十一 自十八日至廿四日
 実道坊 四八十二 自廿五日至 一日
 全性坊 四八十二 自 二日至 八日
 花城坊 四八十二 自 九日至十五日
 珠臺坊 四八十二 自十六日至廿二日
 寂性坊 四八十二 自廿三日至 晦日
 右、守此旨、可致勤行所如件、

貞治二年卯十二月吉日 衆議定之

とあり、これを見ると、まず心連坊からはじまる十七もの坊名があり、その下に「心連坊 正五九 一日より七日に至る」のごとく、「正五九」とある月（この場合は正月・五月・九月を示す）と、日にちが記されています。これは各坊が一年の決められた月に、法華寺に勤仕するその順番と日数を定めたもので、三坊から五坊が一グループとなつて、担当の三ヶ月のあいだ、各月に一坊あたり七日間ずつ法華寺へ勤めていたようです。「毎日例時」とあるところから、毎日決まった時刻に読経や祈禱などの、定められた儀式を行っていたとみられます。史料の末尾には「右、此の旨を守り、勤行致すべき所くだんの如し」とあり、また「貞治二年卯十二月吉日 衆議これを

定む」とあります。ここからこの十七坊の勤仕の順番が「衆議」と呼ばれる僧侶による集団合意によって決定されていたことが分かります。

四、師岡町の屋号と十七坊名

中世の寺院は、いくつもの院家・坊の集合体でした。その集合体の総体を寺家といひ、坊の代表格を別当と呼称しました。南北朝時代の法華寺は、全寿院を代表とする十七もの坊によって構成され、それらが合議をして運営する、比較的大規模な寺院だったと考えられます。

さきの史料にみえる十七坊の名称は、現在も師岡町の旧家の屋号や小地名にいくつか遺る、と土地の人は語ります。現在の法華寺を指す別当坊をはじめとして、たとえば松本坊は屋号「まつもと」、理歡坊は屋号「じんが」、蓮臺坊は屋号「でんでば」、花城坊は地名の「けいじよう谷」などです。また「じけ」という屋号もあります。さらに禪乗坊は江戸時代初めの史料に登場することから、師岡町内に存在したことは明らかです。

このような坊名の広がりから、当時の法華寺は師岡町全域およびそれを超えて存在していた可能性が考えられます。

ふるい地形を今も遺す師岡町には、このように南北朝時代の寺院の面影もまた、見つけることができるのではないのでしょうか。

（阿諏訪 青美）

拄杖図 卓洲胡僊筆 白面賛 一幅

左の図は何か分かりますか。くねくねとしたものが書かれています。字とも見えますし、絵にも見えます。

実はこれは、卓洲胡僊という禅僧が描いた「拄杖」です。中央に拄杖を大きく描き、その左右に「古人 這裏に到て 什麼と為てか 肯て住まず」（こじん しゃりにいたりて なんとしてか あえてすまず）と書かれています。

拄杖は、身体を支える杖のことです。仏陀は僧が老齢または病氣のために力がなくなつた場合、杖を用いることを許したと言われています。禅門では、僧の行脚の時に用います。また、戒める時や、上堂して法を説く時の道具としても用いられました。禅僧にとって松子や如意などとともに重要な道具であつたことから、禅の境地に通ずるものとして好んで描かれた水墨画の画題にもまま見かけられるものです。本図も書画に優れた卓洲の残した作品の一つです。

卓洲胡僊は宝暦一〇年（一七六〇）尾張国西津島（愛知県津島市）に生まれ、同国総見寺の祥鳳について出家します。一九歳より各地の高僧を訪ね修行した卓洲は、一時名古屋に帰りますが、白林寺の月鑑より峨山慈禪の高風を聞き、武蔵国永田宝林寺（横浜市南区）に入りその教えを受け、一四年間の修行の後、法を嗣いでいます。寛政八年（一七九六）に総見寺に帰り、文化一〇年（一八三三）一〇月には京都の妙心寺に出世します。天保四年（一八三三）八月二八日に寂しますが、精州全明・雪州胡雄など弟子も多く、その流れをくむ人々を卓洲派と呼んでいます。

宝林寺は、延享年間（一七四四～四八）に月船禅慧が寺の近くに東輝庵を建て安居すると、その世代が兼務するようになります。天明元年（一七八二）六月一二日に月船が寂すと、峨山がその後を嗣ぎ住持となります。その後三世には物先海旭、四世には志山梵俊など高僧が輩出し、近世臨済禅の興隆に大きな役割を果たしました。

横浜市は鎌倉に近く、臨済宗建長寺・円覚寺（鎌倉市）などの関係寺院が多く存在します。永田の宝林寺もその一つです。当博物館では、こうした横浜の禅寺に住した禅僧の関係資料なども収集しています。今回はその中から拄杖図を紹介しました。

（遠藤 廣昭）



常設展示室探検

再現神奈川世界

中世からの湊であった神奈川は、江戸時代に入り、東海道の宿場となり、海の道と陸の道を結ぶ交通の要所として経済的に発展しました。また、江戸時代の前期には周辺地域を支配した陣屋、後期には奉行所が置かれるなど周辺の政治的中心でした。さらに経済的な繁栄は神奈川独自の文化をも醸成させていきます。横浜が開港する以前、神奈川は地域の経済・政治・文化の拠点として大いに繁栄しました。神奈川のこのような多様な姿を二千分の一の地形模型とビジュアルパネル（浮世絵や古写真）を用いて再現したのが「再現神奈川世界」です。模型の手元には、「湊」「茶屋街」「名所・旧跡」「陸上交通」などのタッチボタンがあり、これを押すと地形模型の該当する場所にランプがつき、同時に壁には関連するビジュアルパネルが映し出され、当時の神奈川世界のさまざまな姿を知ることができます。





収蔵庫の二酸化炭素による消火設備

災害対策



博物館が一番怖いものは何でしょうか？それは何といっても火事の発生です。なぜなら、博物館は来館した方々の安全とともに、^{しんぶつ}収蔵している貴重な資料や文化財を、



防災訓練の様子

よい状態で末永く伝えていくことを重要な役割としているからです。

博物館のエントランスホールや展示室付近を見渡すと、あちこちに消火栓や消火器が備えつけられているのがわかるといえます。また、館内の要所要所の壁や床には、安全な場所へ誘導するための表示が二十四時間灯されています。これは災害対策の上で、欠くことのできない備えであり、きちんと働くか定期的に点検を行っています。また、多くのお客様が出入りする展示室等には、スプリンクラーによる消火設備が整えられています。ただし、この方法では天井から室内に水が撒かれますので、ケースに入れてあるものの以外の展示品に水がかかり、貴重な資料に傷みが出てしまいます。その恐ろしい火事の原因のほとんどは、不注意による失火、設備や機械の不具合によ

る漏電^{ろうでん}、放火による人災です。ですから博物館の災害対策の基本は、何をおいても火事を出さないように点検を重ねること、これに尽きるわけです。

この博物館の四・五・六階の収蔵庫には、約三万点に及ぶ歴史・考古・民俗資料が保管されています。ここはもちろん火種になるようなものは入れませんが、何かの事情で火災が発生した場合への消火設備が完備されています。その主なものは、二酸化炭素^{にさん}を放出して室内に充満させ、これによって酸素の供給を断って消火するものです。この方法によると、直接火を受けたものの以外はほとんど無傷で残るからです。ただ、このガスは人命に害を及ぼすものであるため、まず、警報のサイレンを鳴らし、室内に人がいないことを確かめ、それからボタンを押してガスを出す手続きが厳重に定められています。

こうした設備と併せて、博物館には館員による自衛消防隊がつくられています。ここでは、万一の場合の対処の仕方を定めた「防災マニュアル」にもとづいて、お客様を安全な場所に避難誘導することを第一に、消火班や搬出^{はんしゅつ}班等の役割が定められています。そして、毎年九月の防災の日前後と、一月の文化財防火デー前後には消防署の協力を得て防災訓練が行われています。この時ばかりは、防災服とヘルメットに身を固めた館員が、消火栓や消火器を持って走り回る、普段とは違った博物館のウラの姿を見ることが出来ます。

（前沢和之）

ちょっと

ミュージアムショップたいむ
Museum Shop Time

新商品紹介

「草木染めのきんちゃく袋」と「ミニ土器」



草木染めきんちゃく袋 1,470円
ミニ土器 1,000円～3,000円（5種類）

オリジナル商品の草木染めに小さなきんちゃく袋が加まりました。都筑で採れた草木で染めた木綿を、白のシルクオーガンジーで包んで縫い合わせてあり、表にはかわいらしい勾玉の模様がステンシルで描かれています。これだけ手間がかかっているにもかかわらずリーズナブルなのは、「とにかく使っていただきたい。」という、製作者の鶴田真澄さんのご希望によるもの。色は背高泡立草、そよご、紅梅で染めた3色です。

また、平田篤史さんが造りだす現代版縄文の作品にも新シリーズ「ミニ土器」が加まりました。こちらも手作りですので、ひとつとして同じものはありません。時々、作品を入れ替えますので、のぞいてみてください。お気に入りの形が見つかるかも。

来るたびに新しい発見のあるミュージアムショップ。まずはお気軽に遊びに来てくださいね。

今後の企画展のお知らせ

- ◎特別展「ヤマトとアヅマー武具からみるヤマト王権と東国」
10月9日(土)～11月28日(日)
- ◎平成16年度横浜市指定・登録文化財展 横浜の遺跡展
12月11日(土)～1月16日(日)
- ◎企画展「横浜の農具」(仮題)
2月5日(土)～3月13日(日)

表紙写真は

唐箕 風の力を利用して、穀物の実と殻やちりとを分ける道具です。上のろうとに脱穀した米などを入れ、ハンドルややりきをまわして風を起こすと、殻やちりは吹き飛び、実が下の選別口から出てくる仕組みです。表紙はすべて横浜地域で使われていた唐箕ですが、大きさや吹き出し口のかたちなど、さまざまな違いを見ることができます。

??????? 知ってますか ???????

センター北駅そばに、歴史博物館の案内看板を新設しました！

市営地下鉄センター北駅1番出口の長い階段を下り、駅舎を出たところを左手をご覧いただくと、突当りに写真の案内看板が立っています。この看板を右折すると、正面に博物館のトンガリ屋根が目に入ります。そこからは博物館までまっすぐ徒歩3～4分の距離です。現在、近隣住宅地の開発や地下鉄工事で、駅から博物館までの道順が判りにくくなっておりますが、この道順だと広い歩道をご利用いただけます。この看板を目印に、博物館へお越しください。お待ちしております！



(2004年4月1日～2004年9月30日)

- 4月10日 戸塚宿400周年記念企画展「東海道と戸塚宿」開催 (5月16日まで)
- 4月24日・5月8日 企画展ミニ講座「東海道戸塚宿の成立について」
- 4月24・25日 体験学習「まがたまづくり」
- 5月12日 歴史講座「横浜の歴史」(6月16日まで連続6回)
- 5月22・23日 体験学習「小田原ちょうちん」
- 5月27日 ふるさと横浜探検「開国150周年記念 開国期の神奈川宿を訪ねて」
- 5月29日 収蔵資料展「開国150周年記念 武州金沢藩と黒船来航」開催 (6月27日まで)
- 6月23日 「開国150周年記念連続講座」(7月21日まで連続5回)
- 6月24日 ふるさと横浜探検「開国150周年記念 開国期の関内地区を訪ねて」
- 7月11日 エントランスホールコンサート「ピアノの愉しみソロと連弾」
- 7月17日 収蔵資料展「江戸風俗絵巻一描かれたあそびとくらし」開催 (9月5日まで)
- 7月22日 ふるさと横浜探検「開国150周年記念 開国期の山手地区を訪ねて」
- 7月26日 「むかしの遊び体験コーナー」開設 (8月31日まで)
- 7月29・30日 体験学習「そめもの(万祝染)」
- 8月3・4日 体験学習「土偶づくり」
- 8月6日 体験学習「まゆ細工」
- 8月8・22日 夏休みめきし教室
- 8月11日 ふるさと横浜探検「寺家の谷戸たんけん」
- 8月18・19日 古代人まるごと体験講座・古代米ひとくち体験
- 8月21日 夏休みはくぶつかん寄席
- 8月27・28日 体験学習「まがたまづくり」
- 9月16日 防災訓練

横浜市歴史博物館 日誌

横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

編集後記

長く暑い夏でした。ようやく待ちに待った秋です。秋の特別展は「ヤマトとアヅマー」。古墳から発見された武器・武具から5世紀のヤマト王権と東国地域について探ります。関西地域の重要文化財の甲冑など多数が展示されます。ぜひ、ご覧下さい。

●開館時間

午前9時から午後5時まで(ただし、入館は午後4時30分まで)

大塚遺跡、都筑民家園を除く公園部分は24時間オープン

●休館日

歴史博物館・大塚遺跡

月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始

都筑民家園

毎月第3月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。

●常設展観覧料

区分	個人	団体 (20人以上1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

◆特別展・企画展の観覧料は、別に定めます。

◆毎週土曜日は、小・中・高校生は無料です。

◆「長寿のしおり」「敬老特別乗車証」「愛の手帳(療育手帳)」「身体障害者手帳」「障害者手帳」をお持ちの方は無料です。

●交通案内図

横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分

(「センター北駅」へは横浜駅から23分 新横浜駅から12分)



駐車場あり(2時間400円)

●インターネットホームページ

<http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

